

# 釧路地区農協青年部協議会 ポリシーブック2015

## 目次

1. 自給粗飼料の確保並びに安定した生乳生産を目指した食害（鳥獣被害）対策
2. 仲間作りと研鑽を目的としたJA青年部間交流の活性化を図るための対策
3. これからの担い手を確保し地域を活性化するための対策



---

**JA YOUTH**



# 釧路地区農協青年部協議会

## ポリシーブック2015 要約版

釧路地区農協青年部協議会は我々が目指す姿を実現するために、下記現状の解決に向けた取り組みを自ら行い、必要に応じた支援を要請します。

	自給粗飼料の確保並びに安定した生乳生産を目指した食害（鳥獣被害）対策	仲間作りと研鑽を目的としたJA青年部間交流の活性化を図るための対策	これからの担い手確保と地域活性化のための対策
目指す姿	自給粗飼料を鳥獣被害から守り、生産ロスを減少させる 鳥獣による牛への危害や伝染病への防衛 安心安全な生乳生産を安定して行う	仲間作りと研鑽により、将来の地域を担う人財を育成する 様々な交流により知識や技術、経験も共有する 多くの青年部が組織活動に参加する事で結束力を強め、より魅力的な組織にする	後継者流出を抑制し、担い手を確保して地域を活性化 仕事に誇りをもち魅力ある農業青年育成と婚活イベントへの積極的参加
現状・課題	食害により、多大な生産ロスの発生 資材被害による、飼料の品質低下 伝染病の危険性	各種事業への参加者が固定している	異性との出会いが少ない 積極性が足りない 自分事として考えるため意識向上が必要
青年部自らが取り組む事	引き続き自己防衛 行政と連携した研修や意見交換会などの開催 猟銃免許取得	活動に対し主体性を持つ仕掛け作り 部員のみならず地域住民への青年部活動の理解醸成	必要に応じた講習会の実施 関係会議・イベントへの参加参画を促す 酪農への理解促進
JAや行政に支援要請する事	鳥獣捕獲の強化 鳥獣侵入防止対策（自己防衛含む）への支援	青年部活動への理解深化と予算・人的支援	婚活イベント開催並びに参加に向けた支援 後継者や新規就農者に向けた支援

# 1. 自給粗飼料の確保並びに安定した生乳生産を目指した食害（鳥獣被害）対策

## ＜我々青年部が目指す姿＞

安全安心な生乳生産の安定供給に向けて、自給粗飼料の十分な確保および牛の安全を確保する為に、鳥獣被害による生産ロスを減少させ、高品質な自給粗飼料の確保、牛への危害や伝染病に対する自己防衛を行う事により経営の安定化を図る。

## （1）現場の現状と課題

### ◆ シカ

- ・ 牧草、デントコーン等の食害。飼料価格高騰の最中で、自給粗飼料の確保が重要であるが、牧草、デントコーン等の食害により多大な生産ロスが発生している。
- ・ 現在も有害駆除を行っているが、被害は年々増大。
- ・ 柵をしている農家もいるが、コストがかかるため普及が進まない。

道東地域においてはエゾシカの個体数が減少に転じるには少なくとも年間5万頭のメスジカ捕獲が必要であるが、平成25年度では2万8千頭（うち、メスジカは1万8千頭）の実績しかない。現在も個体数が増加し続けており、被害が拡大している。

### ◆ 鳥類（カラス、丹頂鶴等）

- ・ カラス等の鳥類によって、スタックシート・ロールパック等に穴を開けられ、飼料の品質低下（腐食・腐敗）により生産ロスを招いている。盗食被害も多い。
- ・ 牛舎内に侵入し、牛の乳房等への危害や、飼槽等で糞をする事による伝染病への不安がある。
- ・ 地区によっては丹頂鶴による被害も出ている。天然記念物であるため、駆除ができず、対応に苦慮している。

## （2）課題解決のために必要な事

- ①エゾシカの個体数の削減に向けて駆除方法や猟銃免許更新の規制緩和、ハンターに対する支援の拡充。
- ②各農家に対するシカ柵やカラストラップ檻への助成の拡充・推進。

### **(3) 我々青年部が自ら取り組む事**

- ①国や行政に被害の現状を訴えながら、自己防衛に努める。
- ②釧路振興局と連携した、シカ柵、わな、猟銃の必要性、資源としての活用や知識を広めるための研修会並びに意見交換会開催の検討。
- ③盟友の猟銃免許取得に向けた取組み(研修会など)を検討する。

### **(4) 行政へ支援要請する事**

- ①頭数減少に向けたメスジカの補獲等、強力な対策の要請。
- ②コストの負担が大きいシカ柵やカラストラップ檻による侵入防止策に対する設置費用の助成。
- ③特に国立公園近隣区域におけるシカ柵設置、捕獲の重点強化。

### **【参考：平成26年度の振り返り】**

- ・引き続き自己防衛に努めたが、被害状況は一向に変わらない。
- ・シカ柵設置はまだまだ浸透していない。
- ・地元選出国會議員に要請を実施した。

## **2. 仲間作りと研鑽を目的としたJA青年部間交流の活性化を図るための対策**

### **＜我々青年部が目指す姿＞**

- ・仲間作りにより将来の地域の担い手である青年部員各自が研鑽を積む事で、将来の地域を担う人財を育成する。
- ・単組青年部や学生・異業種との相互交流によって知識・技術・経験を共有する。
- ・多くの青年部員が参加する事により、青年部活動の活性化と組織の結束力を強め、さらに魅力ある組織にする。

### **(1) 現場の現状と課題**

地区や単組毎で、交流などの各種事業等を行ってはいるが、参加者が限定され知識の共有が図れていない。

### **(2) 課題解決のために必要な事**

- ①部員の興味のある研修会、交流会を企画し、実施回数や内容を前向きに検討する。
- ②各自、青年部組織の目的を再認識し、自らが運営する組織である事を踏まえて部員間の声かけを行い各種事業への参加を促す。

### **(3) 我々青年部が自ら取り組む事**

- ①青年部が主体的にやる事を前提に、各種団体とも連携し交流の場や学習機会の提供などを行う。
- ②若手部員の参加を促す為に事業のバリエーションを増やしたり、事業実施時には積極的に意見を聞くなど、本音を引き出せるような対話活動を行う。また事業終了時には聞いた意見を参考にふりかえりを行い、次年度事業に繋げる取り組みをする。
- ③青年部が実施する農畜産物消費拡大事業やファームステイ事業に学生や異業種、関係団体を巻き込む事で、青年部員だけでなく地域住民にも青年部活動の理解醸成を図る。
- ④4Hクラブとも交流を図り、若い～同世代の農業青年にJA青年部活動への理解を深めてもらう。

### **(4) JAや行政へ支援要請する事**

青年部活動の活性化は地域社会の活性化にも貢献する為、研修会や交流会の内容に応じてJA・関係団体ならびに地域、行政により一層の活動の理

解と予算・人的支援を求めていく。

**【参考：平成26年度の振り返り】**

- ・ 青年部員の交流を目的に各単組混合のスポーツ交流会を行った。
- ・ 各種事業への参加者が役員などに固定されている。
- ・ 若手をどう集めるかが課題。

### **3. これからの担い手を確保し地域を活性化するための対策**

#### **＜我々青年部が目指す姿＞**

- ・後継者人財の流出を抑制し、担い手を確保して地域を活性化させる。
- ・仕事に誇りを持ち、魅力ある農業青年になる事で結婚や将来の後継者対策につなげる。

#### **(1) 現場の現状と課題**

- ・異性との出会いはあるが、チャンスをものにできない。
- ・女性との交流に積極性が足りない独身者が多く、マナーや身だしなみや話し方が身につけていない部員も中にはいる。
- ・後継者が帰ってこない（他の職業に就いている）。
- ・新規就農者や労働力が不足している。

#### **(2) 課題解決のために必要な事**

- ①積極性を磨く様な講習会や女性との交流の場を青年部自らが開催する事で部員の意識向上を図る。
- ②後継者の兄弟などが地元で就農できる環境を作り地域の人口流出を防ぐ。
- ③雇用側の意識改革

#### **(3) 我々青年部が自ら取り組む事**

- ①マナー講習等を開催し公の場でのマナーやコミュニケーション能力向上を目指す。（イケダンセミナーなど）
- ②青年部員からの意見をEPF（釧路管内農業後継者対策推進会議）に反映させるため会議等へ出席する。
- ③EPFイベントへの積極的な参加を部員へ促す。
- ④酪農体験の受入や消費拡大イベントを通じて、酪農に興味のある学生等に酪農への理解を深める。

#### **(4) JA・行政へ支援要請する事**

- ①地域で開催する婚活イベントへの予算並びに参加者の確保、必要に応じた講習会の実施のほか、道青協主催の婚活イベント参加にあたっての支援を要請する。
- ②後継者、新規就農希望者が就農できるよう研修施設や資金、就農先の確保を要請する。
- ③安定した労働力確保に向けた制度の構築を要請する。



**【参考：平成26年度の振り返り】**

- ・平成27年度の道青協婚活事業実施に対して提言した。